

タチウオは大きくなると顔が変わってくるとともに体型など個体による違いも現れる。大型魚、ドラゴンはときに唯一無二の存在となる

◎隔月連載

富所 潤の

FISHIN'GRAPH

フィッシング'グラフ～見て感じて楽しむ沖釣りライフ

③⑩東京湾のドラゴン～三浦半島鴨居大室港出船～



「昨年までと違い、今年の東京湾はバイブレーション以外で釣れることも、硬い竿だけでなく軟らかい竿も有効というの間違ひありません。でも逆に言えば、今も硬い竿でのバイブレーションは主力です」

◆ 「昨年までと違い、今年の東京湾はバイブレーション以外で釣れることも、硬い竿だけでなく軟らかい竿も有効というの間違ひありません。でも逆に言えば、今も硬い竿でのバイブレーションは主力です」

2020年、テンヤ釣法の拡大と全長120センチを超える「ドラゴン」級タチウオの好況により、東京湾にテンヤタチウオブームが巻き起こり、翌年に釣果がやや落ち着きを見せ始めると、今度は圧倒的な釣果をたたき出すバイブレーション釣法が出現した。

そしてブームから3年が経過した今年、東京湾は大、中、小交じりの、以前の海に戻ったと言われる。ただ、2020年以前と異なるのは、テンヤが東京湾に根付き、今なおテンヤはドラゴン出現率が高いことだ。

色とりどりの遊漁船が船団を組む東京湾らしい風景の中でドラゴンを掛ける

【サーベルマスターリミテッド】

◎最高峰のフラッグシップモデル、リミテッドのみに採用される高弾性素材をベースにシマノロッドテクノロジーを余すことなく注入することにより超越した操作性と感度・強度を実現。さらに疲労軽減など快適性までを追求・実現したテンヤタチウオロッド。

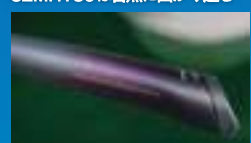
■82MH180

◎SPEC 全長1.8m、2本継ぎ、仕舞寸法134.2cm、自重148g、テンヤ号数30～60号、カーボン含有率98.8%、価格＝8万2000円

■91HH170

◎SPEC 全長1.70m、2本継ぎ、仕舞寸法124.2cm、自重153g、テンヤ号数30～60号、カーボン含有率98.8%、価格＝8万2500円
※発売日未定

▲超高感度カーボンソリッド穂先。82MH180は自然に曲がり込む



▲魚信など様々な変化を触れている部分に伝えるカーボンモノコックグリップはハイレゾタイプ



◀オールラウンドの[82MH180]と超敏感穂先調子 [91HH170] の2モデル。ブランクスはどちらも驚くほど細い



▲左右両用で安定性と疲労軽減に加えフロントトリガー部によりコントロール性も備えた新設計「X シートテクニカルグリップ」はタチウオ釣りに最適

▲91HH170の穂先は激短カーボンソリッド仕様

◀最小限の方的確にテンヤを動かすことができる、と富所さん



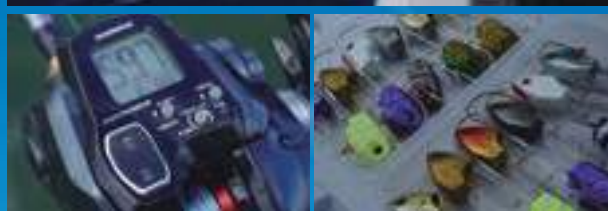
▲サーベルマスターリミテッド82MH180はしなやかさと硬さのバランスが絶妙な、全国仕様のど真ん中モデル。釣りやすく、掛けて楽しい



サーベルマスターリミテッド91HH170。バイブレーションの動作では曲がることなくでもタチウオが掛かると胴にかけて曲がる



サーベルマスターリミテッド82MH180で指5本幅、120センチのドラゴンを掛けた状態



▲フォースマスター200DHでは速度1 ▲サーベルマスター船テンヤ40号、の機速で省エネバイブレーション 50号を使用

▶抜き上げはリーダーを持って行う



8月の走水沖、水深64メートル。富所さんは指示ダナを省エネバイブレーションで探り始める。

「東京湾のドラゴンがスレたり、大型の比率が下がれば、これまで圧倒的な効果を発揮していた大羽イワシも、バイブレーションも、当然シビアに選ばれるようになります。実際、エサのシルエットを控え目にしたり、きれいに付けないとアタリが出にくいことも珍しくありません」

東京湾のテンヤタチウオを再点検するかのようには、富所さんはイワシをひときわていねに付ける。

「釣り方も、あらためて省エネバイブレーションをしっかりと、正確に行って潮ヨレを探していきます」

今回使っている竿はサーベルマスターリミテッド91HH170。最先端のテクノロジーにより作られた、シマノ最高峰の新作テンヤロッドだ。

「91HH170はバイブレーション釣法に特化した超硬仕様です。動作の中からアタリはもちろん、潮ヨレなどあらゆる変化を伝えてくれますから、今まで以上に繊細にリサーチできます」

潮ヨレはタチウオの真のタナとも言える場所。その潮ヨレを察知して集中的にバイブレーションで誘うと、1本、また1本とタチウオが掛かる。

硬い先調子竿は渋いときに食わせにくいとも言われるが、富所さんは無理に追わせるのではなく、フォールを織り

交せて本アタリを出させていく。

「釣り方を変えたり、竿の使い分けで対応するのも攻略法でしょうが、ぼくは自分の得意な一つの釣り方を究めるほうが大切だと思っています。完全にマスターした一つの釣り方を一旦ブレずに続けていけば、必ず大きなチャンス、つまりドラゴンに巡り会えると考えています」

テンヤ、エサ、そして省エネバイブレーションを究め、最高峰のロッドを使い続ける富所さんが沖揚がり前に訪れたドラゴンの時合に、136センチを筆頭に131センチほか120センチ級を連続して釣り上げたのは必然だったのかもしれない。

東京湾のドラゴンは今年も健在だ。もし釣り方や道具に迷っているのであれば、一つの釣り方とことん究めてみてはどうだろうか。



沖揚がり直前に全長136センチのドラゴンを釣り上げる。釣り方は朝からずっと省エネバイブレーション